

2019年

サヨナラ 安倍暴走政治 今年こそ!!

松戸から千葉から 平和で公正な社会を

日本共産党



昨年はアベ政権による強行採決の常態化、ウソと隠蔽の政治が極まりました。同時に松戸でも市長は、相次いで大型開発計画を打ち出す一方で、財源不足を理由に公共施設の統廃合を進めようとしています。2019年は市民と野党の共闘で悪政を断ち切るため、県議選・参院選で日本共産党を躍進させて頂き、平和と福祉・暮らし中心の政治を実現しましょう。消費税増税・9条改憲と戦争する国づくりを許さない、辺野古への新基地建設反対、「原発ゼロの日本」へ今年も力を合わせましょう。

大型開発構想、見えた氷山の一角

昨年の9月議会、12月議会を通じて市長の大型開発構想の一部が見えてきました。

新松戸駅東側に約215億円（右写真）、都市計画道路に約70億円…これだけで市立総合医療センター建設費に匹敵します。

これから松戸市は市役所や市民会館、図書館本館の建て替えを控えている他、市長は松戸駅周辺の再開発、矢切観光拠点、千駄堀新駅、さらに常磐線各駅、六実駅周辺など総額1000億円をはるかに超える開発構想を掲げています。



新松戸駅東側の土地区画整理事業予定地

— 学校や保育所減らして大型開発推進は「逆立ち」 —

いま審議中の統廃合構想(案)

公立 公立保育所
17カ所 → 9カ所

小中学校
65校 → 56校

※公共施設再編基本計画(案)および推進審議会資料より

議会ではこれまで「すべて実現することは財政的に到底不可能」「優先順位と事業費の見通しを示すべき」と求めてきましたが、市長はいっさい答えていません。

他方で市長は「公共施設再編の基本計画案」を議会に説明しました。老朽化した公立保育所や学校など公共施設のための予算が不足することから統廃合するための計画です。

福祉や教育・公共施設に「お金がない」と言いながら、大型開発だけは「全部やる」では市民の理解は得られません。

— 開発優先から暮らし優先へ —

まず必要なことは、大型開発はいくらかか、福祉や教育にいくら足りないのか、全体像とそれら施策の優先順位を明らかにすることです。切実な暮らしの願いに応える市政を基軸に、必要な事業についての全市民的議論と取捨選択が求められています。

市長に2019年度 予算要望書を提出

2018年12月11日、党市議団は新年度予算に向けた要望書を提出し、市長・副市長などと意見交換をしました。市議選で公約に掲げた4つの柱「子育て安心」「老後も安心」「災害に強い」「市民で賑わう」松戸市にそって22項目にわたり申し入れました。

子どもの保育をコストととらえ、待機児童解消では安上がり保育だけを進める市長に対し、量的な対応だけでなく質の充実のためにも0歳～5歳児までの認可保育所が重要と訴えました。また、国保料の引き下げや住宅リフォーム助成制度の拡充、松戸駅のバリアフリー化を加速させることを要望しました。

市が市民の願いに寄り添い、命・暮らし・福祉を第一に考えた新年度予算編成を行うよう強く求めました。

まつど民報
【市政報告】
2019年1・2月号
日本共産党松戸市議団
TEL 047(366)7403
FAX 047(366)5915
ご意見・お問い合わせはホームページから
日本共産党松戸市議団 検索

この議会報告は、政務活動費により発行されています

どうぞあなたのご意見・ご要望をお寄せください

